

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）  
プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）**

**2011年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属・職名	氏名	
	文学部・教授	石川 巧 印	
研究課題	戦後占領期に「地方」で刊行された雑誌・新聞に関する総合的研究		
研究組織	所属大学名等・職名	氏名	
	立教大学・教授	石川 巧	
	立教大学・教授	井川充雄	
	立教大学・兼任講師	吉田則昭	
	立教大学大学院 博士後期課程	住友直子	
研究期間	2011 年度 ～ 2012 年度		
研究経費	2011 年度	2012 年度	総計
	2,880 千円	3,000 千円	5,880 千円

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクトは、占領期に刊行された雑誌・新聞を網羅的に調査することによって、混乱期の日本において、どのような「言論」と「表現」が展開されていたのかを検証しようとするものである。特に「地方」という視点を重視し、①それぞれの雑誌・新聞に地域の独自性・特異性、②「地方」から「中央」に向けて発信された情報とその価値、③「地方」の雑誌・新聞が戦後日本の新しい社会、文化、風俗の生成に果たした役割、などの考察に力点を置く。占領期の日本に関する研究の多くは、GHQ/SCAPの政策を光源として、アメリカから管理された日本、アメリカに再教育された日本という自画像を構成する傾向があるが、それは当時の日本を一元的に捉える見方を醸成することにもつながった。本プロジェクトは、占領期の日本に極めて雑多な言説が溢れていたこと、それぞれの地域が自前のディアをもって地域の復興に力を注いでいたことに価値を見いだすことを主な目的としている。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 占領 ] [ 検閲 ] [ 雑誌・新聞 ]

## 研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

これまでの占領期メディア研究は、主に、東京で発行された大規模の雑誌・新聞や、特定のジャンルの雑誌に偏りがちであったといわざるをえない。地方の雑誌・新聞文化に関する研究は地域によってかなり差がある。北海道や沖縄といった「周縁」に位置づけられてきた地方は、かえって、研究者の注目が集まりやすく、研究が進んできた側面もある。雑誌や新聞そのものも、プランゲ文庫に収録されていないものが、個人の蔵書からまとまって見つかるということがこれまでもある。新聞についても、植物標本を包むためという別用途に用いられたものが残されていたという事例があるなど、まだまだ新しい原紙が発見される可能性がある。したがって、本研究では、できる限り、地方に拠点を置く研究者（地方史や郷土史研究者、あるいは地方の各種資料館・図書館関係者）と幅広く提携することによって、これまで見過ごされがちだった研究活動を糾合することを目指す。そうした包括的かつ複眼的な取り組みを進めることによって、当時の日本社会全体を貫く普遍性を意識しながらも、各地方の歴史・文化・風土の特殊性をあきらかにすることができると考えている。

このような原則に基づき、本プロジェクトでは以下のような課題を設定している。

- ① データベース化以前の研究では、新聞・雑誌記事の一覧性がなかったため、研究者の主観的な取捨選択によって、資料分析、テキスト解釈が行われていたといえるが、データベース化の進展した今日、あらゆる記事は、等価的、並列的に表示される。このことは、これまでの研究を再考させる契機ともなるだろうし、新聞・雑誌記事の未解明部分にも光をあてることになる。
- ② プランゲ文庫には、占領期のあらゆる新聞・雑誌が収集されてきたとされるが、同文庫の可能性と限界も垣間見えてきている。例えば、在日米国人向雑誌『リーダーズダイジェスト』は、日本人のアメリカナイズーションに大きな影響を及ぼしたにも関わらず、収録されていない。また、当時の用紙割当・流通状況とも無縁の業界アウトサイダーとして刊行されたカストリ雑誌は、同文庫に収録されていないものも多い。これら雑誌と同様な位置づけにあると考えられる地方雑誌を収集するとともに、それらの総目次を作成したい。
- ③ GHQ のメディア政策では、各地域で検閲が行われていたわけであるが、その検閲も一枚岩的に論じられることも多い。しかし GHQ 側のまなざしは、より複雑で、多面的、多層的である。地域に即して、当該雑誌を調べることで、完成した記事とその対応実態としての検閲を、より掘り下げて理解する。
- ④ 特に雑誌において顕著であるが、地方によって、発行される雑誌ジャンルの多寡を測定することができるのではないかと考えられる。例えば、右翼雑誌や引揚復員に関する雑誌の発行所在は、特定の地域に偏在することが知られているし、こうした地方別の雑誌所在は「地方」という区分だけでなく、「職業」、「趣味」、「世代」などで分類することで地方における言論・表現のジャンル・カテゴリー資料の作成を可能にすると考える。

こうした認識に基づいて研究活動を進めてきたわけだが、2011 年度に関しては主にメンバーそれぞれが自分の研究課題を設定し、それを遂行するなかでお互いの連携を深めるとともに、批評的に関わってような緩やかな連携に重点を置いた。代表者の石川は占領期に地方で刊行された総合雑誌をリストアップし、それらの資料収集を行ったうえで解題と総目次の作成に取り組んだ。占領期に香川県高松市の四国新聞社から刊行されていた雑誌「四国春秋」について調査を終えて解説・総目次を活字化したほか、同時代に読売新聞社から刊行されていた「月刊読売」についても調査・資料収集を終えている。同誌については、読売新聞東京本社のデータベース室の協力を得るとともに、雑誌の復刻版に実績のある出版社から復刻版を刊行する予定である。「月

刊読売」はこれまで、研究がなされてこなかった雑誌だが、復刻版が刊行されれば、占領期の日本における様々な言論が新たに発掘できるだろう。

井川は、地方の公共図書館や大学図書館の所蔵状況も確認しながら地方新聞のデータベースの補完作業、各新聞の発行年、創刊者、組織、人員等の書誌情報を更新する作業を行なった。日本全国を一律に対象とするのは不可能なので、研究分担者の井川がこれまでフィールドとしてきた、愛知や静岡など東海地方からはじめているが、今後は、徐々に全国に拡大していく予定である。

吉田は、2011年8月に「占領期日本における海外文化受容の実態」と題して海外の日本研究学会で発表するなど、本研究の課題に即したかたちでめざましい成果を発表しつつある。モスクワでの資料調査では、占領期の日本におけるソ連文化の受容など、新たな研究テーマを見だし、「海外文化の受容」という観点から本プロジェクト研究に取り組んでいる。また、ジャーナリスト・緒方竹虎の評伝を執筆する過程で、それに関連する占領期雑誌の調査を行ない、20世紀メディア研究所、各種メディア研究グループとの連携・交流を進めている。

住友は、20世紀メディア研究所の「占領期新聞・雑誌データベース」を基盤に占領期の総合雑誌、文芸誌（企業・刑務所等発行の雑誌の文芸欄も適宜調査に含む）から、占領期文芸思想に関連する雑誌記事の絞り込みを行った。対象とする雑誌記事は発刊の辞・批評・随筆・座談会（小説も補助的に含む）など詳細を極めており、今年度はその成果が活字化される予定である。また、住友には京阪神を中心とする日本の各都市における文芸思想関連雑誌記事を収集・閲覧するという研究課題が与えられているが、それについては2012年度から着手し、早急な成果の公開をめざす。

その他、この一年間の研究活動を通して新たな展開をみせたテーマについて、その進捗状況をまとめておく。代表者の石川は、地方都市で刊行された総合文化雑誌に関する研究を続けつつ、いわゆるカストリ雑誌にも関心を広げ、これまで低俗な風俗雑誌として認識されてきた同ジャンルを戦後文化の発信拠点と位置づける研究を行いはじめている。これまでのカストリ雑誌研究には、復刻版『カストリ新聞 昭和二十年代の世相と社会』（大空社）、山本明『カストリ雑誌研究—シンボルにみる風俗史』（中公文庫）、山岡明『カストリ雑誌にみる戦後史・戦後青春のある軌跡』（オリオン出版）などがあるが、それらの多くは自身がコレクションしている雑誌の特徴や際立った記事などを紹介するかたちでまとめられており、全体の項目を総目次あるいは総攬としてまとめたものがない。石川の狙いはそうした書誌的な取り組みを進めていくところにある。

井川は、引き続き、地方の公共図書館や大学図書館の所蔵状況も確認しながら地方新聞のデータベースの補完作業を行うとともに、関東および関西エリアでの資料収集を行っている他、アメリカのラジオ放送VOAのプロパガンダ政策にも関心を広げており、これまでの新聞という媒体にラジオ放送を加えるかたちで占領期のメディア状況を分析している。

吉田則昭は、占領期の海外文化受容の実態について、特に文化のアメリカナイゼーションを相対化する視点で調査研究を行っている。今後はジャーナリスト・中野正剛の評伝を執筆する予定であるため、当該人物にゆかりの深い福岡博多に関する占領期雑誌を調査している。その他には、戦後日本の雑誌文化の軌跡を共編著で刊行する計画も進んでいるため、雑誌文化、大衆文化についての資料収集を行うとともに、メリーランド大学プランゲ文庫・アメリカ公文書館で資料収集・調査を行う予定である。

住友は、放射能被害で資料調査ができない現状をふまえつつ、当初の研究計画を修正し、主に国会図書館、神奈川近代文学館の資料を活用した研究を進めつつある。

※ この（様式2）に記入の、経過・成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

**① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)**

- 井川充雄 「永末英一と世論調査」  
(『Intelligence』第12号, 2012年, 20世紀メディア研究所, 85-94頁)
- 井川充雄 「書評・土屋礼子『対日宣伝ビラが語る太平洋戦争』」  
(『図書新聞』2012年2月18日, 4頁)
- 石川 巧 「雑誌「四国春秋」解題と総目次」  
(「日本文学論叢」第11号, 2011年8月, 177-241頁)
- 吉田則昭 「書評・里見脩『新聞統合』」  
(『メディア史研究』32号, 2012年刊行予定)
- 吉田則昭 「アウトサイダーとしての占領期雑誌: カストリ雑誌の資料状況」  
(『文献継承』第20号, 金沢文圃閣, 2012年3月)

**② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)**

- 吉田則昭 『緒方竹虎とCIA—アメリカ公文書が語る保守政治家の実像—』(平凡社新書, 2012年5月18日)
- 吉田則昭・岡田章子 [共編] 『雑誌文化の戦後史』(森話社, 2012年7月予定)
- 川井良介編 『出版メディア入門』(「第二章 出版メディアの歴史」8-36頁を担当, 日本評論社, 2012年6月予定)
- 谷川建司編 『占領期のキーワード100 1945-1952』(青弓社, 2011年8月)
- 石川 巧 『復刻版「月刊読売」+総目次と解題』(三人社, 2012年12月刊行予定)

**③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)**

なし

**④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)**

- 井川充雄 「VOA Forum—ラジオの作る『教養』」  
(20世紀メディア研究所・第62回研究会, 早稲田大学・2011年9月24日)
- 井川充雄 「VOA フォーラム—「教養番組」とプロパガンダの交差するところ」  
(シンポジウム『占領する眼・占領する声—CIE/USIS 映画とVOA ラジオ』  
東京大学大学院情報学環福武ホール・福武ラーニングシアター、2012年3月4日)
- Mitsuo IKAWA, "Public opinion analysis concerning atomic energy of Japan in the 1950's by USIA", Atomic Ordering on the Borders of Japan:Workshop, Dept of East Asian Studies/ New York University, March 19th and 20th, 2012
- 石川 巧 「占領下の原爆言説—カストリ雑誌は何を伝えたか」  
(原爆文学研究会, 福岡大学, 2012年3月17日)
- 石川 巧 「占領期の福岡における製紙・印刷・出版」  
(福岡市史特別編『近代福岡の文化とメディア』研究会, 2011年11月5日)
- 吉田則昭 "The Reception of Soviet Culture in Japan During the Occupation Period  
( "European Association of Japanese Studies(EAJS) 2011年8月26日, タリン大学・エストニア)
- 吉田則昭 Восприятие советской культуры в Японии периода оккупации (1945 -1952)"  
(占領期日本におけるソビエト文化受容) (日本歴史文化学会, 2012年2月13日, 国立ロシア人文大学・モスクワ)